

経済学部A方式Ⅱ日程・社会学部A方式Ⅱ日程  
スポーツ健康学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

| 科 目   | ページ   | 科 目   | ページ   |
|-------|-------|-------|-------|
| 政治・経済 | 2～21  | 日 本 史 | 22～43 |
| 世 界 史 | 44～67 | 地 理   | 68～76 |
| 数 学   | 78～83 |       |       |

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
  - ・解答用紙の所定欄の受験学部を○で囲むこと。
  - ・解答はおもて面と裏面の所定の位置に、上下の方向に気をつけて記入すること。
  - ・解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

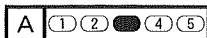
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

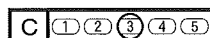
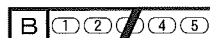
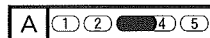
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

宋代の中国では、北方民族の圧迫にもかかわらず、商工業の大いなる発達が見られた。「清明上河図」にはそのような宋代の首都  の賑わいと繁栄が描かれている。北方の国境の守護のために常時大軍を駐留させておく必要があった宋は、いかにして莫大な軍の維持費用を捻出したのだろうか。

宋は建国時から軍と行財政組織の中央集権化を図った。まず君臣関係を強化するべく官吏任用試験制度である科挙を改変し、文官組織を強化した。そして、各地に配置された軍隊の統率を  に代わって文官が統制する文治主義を確立した。科挙によって登用された文官が政治の中樞を握るようになると、唐代までの門閥貴族に代わり、「士大夫」と呼ばれる儒学の教養を身につけた知識人が 支配階層を形成した。

税収機構も中央集権化されたが、この結果、地方での財源が不足したため、地方政府が地元の有力自作農に輪番で様々な労役に徴発する職役を課すようになり、税の主たる担い手であった自作農層は苦しんだ。

宋の中央集権化政策は、商工業における全国規模の流通ネットワークを発達させた。国境に常駐する軍への物資補給の必要がこの発達を牽引した。都  は黄河と大運河の接点にあったため、遠隔地間交易の結節点となった。黄河流域と長江流域、そして沿海海港都市が水運で結ばれている利を生かして、 と呼ばれる物流を担う移動商人が登場し、運送ネットワークが構築された。加えて、消費地で店を持ち小売する  ，そして  と  を仲介する仲買業者である  といった流通を担う組織が発達した。宋政府は、唐代以来の両税法に基づき税徴収の他に、課利の一つとして商業流通に対し商税を課し、また、軍需品の買い上げも行った。このような政府への供出に対応するために都市の商人の間では同業者組合である  が作ら

れた。また、政府は軍需品を納入する  に銅貨の他に茶や塩の専売手形<sup>(6)</sup>を代価として渡すことで財政の不足を補った。

商品交易の市場の場所と時間は唐代初期には市制によって制限されていたが、次第に都市の城郭外に定期市が立ち始め、市制は崩れ始めた。交通の要衝に立つ草市の一部は宋代に入ると  と呼ばれる小都市に発展した。

宋朝6代目の神宗の頃になると、貿易費の増大や官僚増による経費増大で財政が逼迫し、また軍勢力も低下した。このため、宰相であった王安石は新法<sup>(7)</sup>と呼ばれる改革に着手した。しかし、保守派官僚などの反対を受けて改革は挫折し、その後、新法党と旧法党の対立によって国力は弱まった。

12世紀初め、 があって宋が滅んだ後、江南に逃れた皇帝の弟が新たに帝位につき、南宋を建てた。南宋は  を新たに臨安と名づけ都としたが、これによって中国江南部の開発と東南アジア地域との交易の拠点となる海港都市の発展が加速された。外交的には常に北方から金、その後は元の圧迫を受け、財政の多くを軍費や歳貢に支出せざるをえない状態であったにもかかわらず、南宋政権が150年余り持ちこたえたのは、領土の喪失を交易からの税収によって代替し、代わりに商人達の保護費用と取引費用を減少させるべく沿海貿易における治安や覇権獲得政策を行ったゆえであると多くの経済史家は指摘している。南宋では造船業や水運業が発達し、政府は民間の船を徴用して水軍を編成した。その数は13世紀の元との対抗時には2万艘の規模となった。同時に南海貿易も繁栄し、海港都市には市舶司が置かれた。

海港都市での貿易だけでなく、農業面でも江南地域の開発が進み「蘇湖(江浙)熟すれば天下足る」<sup>(9)</sup>と称されるようになった。この背景には、唐末から始まった北から南への人口移動があり、すでに宋代から南部で増加する人口を支えるために耕地開発が行われていたが、この人口移動は、宋の滅亡と金の南進による流民の大量発生によって加速された。

人口増と国内物流システムの躍進、そして南海貿易の繁栄によって市場が拡大したことにより、各地で特産品の生産が盛んになった。また、銅銭鑄造が困難になったため、銅銭不足を補うために以前より多くの紙幣が発行され<sup>(10)</sup>、民間でも流通するようになった。

## 世界史

江南における商業は元代になってからも活発であった。インドを原産とする綿花の栽培が中国に普及し、これとともに綿織物生産が江南で広まっていった。また、元による南北の統一とユーラシア大陸規模での陸上・海上交易の増大は、海港都市や特産品の交易拠点都市をますます繁栄させた。

元を北に退け、<sup>(11)</sup>  で皇帝位についた朱元璋は明朝を立て、皇帝に権力を集中する政治体制への刷新を図った。そして、農産物や徭役など現物での租税徴収を確実にするため、<sup>(12)</sup> 土地と人民の管理を強化した。また、東南沿海では海禁政策をとり、民間人の海上交易を許さず、貿易は、明朝皇帝に対する朝貢の形で<sup>(13)</sup> 行われる、政府が管理するものに限られた。しかし、15世紀中期以降、現物経済中心だった税制や通貨政策と、宋代以降進展してきた江南での商工業の発展との不調和が深刻化し、15世紀後半から政府は次第に銀の流通を認めることとなった。<sup>(14)</sup> このような決済手段としての銀の需要の高まりは銀輸入の必要を生み出した。当時の中国は、生糸・陶磁器・茶さらに綿織物といった海外で渴望される商品を生産していたので、16世紀に入ると国際商業は活発化した。この結果、<sup>(15)</sup> 「湖広熟すれば天下足る」という言葉に表現されるような産業の変化が生じた。しかし、政府は貿易を朝貢貿易に限ろうとしたので、民間の密貿易が横行した。<sup>(16)</sup>

問1 空欄  ～  にあてはまる都市名を解答欄に漢字で記入せよ。一つの都市に複数の呼称がある場合は、いずれか一つを書くこととする。

問2 空欄  ～  にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| a 会館   | b 瓦子   | c 牙人   | d 客商   |
| e 軍機処  | f 行    | g 公行   | h 庚戌の変 |
| i 互市場  | j 作    | k 坐賈   | l 荘客   |
| m 枢密院  | n 靖康の変 | o 靖難の変 | p 節度使  |
| q 茶館   | r 中書省  | s 鎮    | t 都察院  |
| u 土木の変 | v 客家   | w 邑    | x 理藩院  |

問3 下線部(1)に関連して、宋代の北方民族の動きについての説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 耶律阿保機が契丹諸族を統合し、耶律大石の代に後晋を滅ぼして国号を遼とした国家が、宋の建国後も北方で勢力を保った。
- イ 宋の真宗と遼の聖宗は澶淵で和議を結び、宋は遼に絹や銀の歳幣を贈り、両国の皇帝は兄弟の交わりをすることなどを定めた。
- ウ 宋の仁宗は西夏の建国者李元昊と慶暦の和約を結び、西夏の宋に対する臣礼と宋の西夏に対する歳賜などを取り決めた。
- エ 金が成立すると、宋は金と軍事的同盟を結んで遼と戦ったが、その後、宋が背信行為を繰り返したこともあり、金に違約を責められ都を攻撃されることになった。

問4 下線部(2)に関連して、科挙の変遷と伝播の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 隋の文帝が九品中正を廃止して、新しい官僚登用制度として始めた。
- イ 宋代に州試、省試、殿試の三段階となった。
- ウ 元代には実施されなかったが、明代に復活し、20世紀まで続いた。
- エ ベトナムの李朝や朝鮮の高麗でも科挙が導入された。

## 世界史

問5 下線部(3)に関連して、宋代の支配階層の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 科挙官僚を出した家は官戸として、一般とは戸籍が区別され、徭役が免除されることが多かった。

イ 官戸の特権は原則的には一代限りであった。

ウ 莊園を失った門閥貴族は没落し、代わって形勢戸といわれる新興地主が台頭し、この階層から多くの科挙官僚が出るようになった。

エ 科挙を通じて得た官僚経験をもつ郷紳と呼ばれる地方の有力者層が登場した。

問6 下線部(4)に関連して、中国における運河建設の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 大運河は隋の文帝が黄河と大興城を結ぶ広通渠などを建設した。

イ 隋の煬帝の時代に天津方面と黄河を結ぶ永濟渠、長江と余杭を結ぶ江南河などが開通し南北が結ばれた。

ウ 元のフビライは隋代の大運河を補修させるとともに、新運河を開かせた。

エ 明は海禁政策をとったために沿海の海上輸送が使えず、内陸の大運河での水運は極めて重要となったので、洪武帝は運河の補修工事と新たな開削を行った。

問7 下線部(5)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 唐代半ばに宰相楊炎の提案によって施行された。
- イ 各戸の資産と耕作面積に応じて課税された。
- ウ 作物の収穫期にあわせて夏と秋に徴税された。
- エ 宋代に方田均税法によって両税法の課税方式の整備がなされた。

問8 下線部(6)に関連して、中国における茶の課税や塩の専売に関わる説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 塩の専売は唐代より始まった。
- イ 唐末の黄巢の乱は塩の密売商人の挙兵に始まった。
- ウ 唐代に喫茶が大流行し、茶に対する課税が唐代に導入された。
- エ 明代には、軍糧補給の代価として得た専売塩の販売によって業務を拡大した山西商人の集団が登場した。

問9 下線部(7)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 神宗が王安石を登用して改革を試みた。
- イ 新法には、均輸法、市易法、青苗法、平準法、保甲法、保馬法などがあった。
- ウ 哲宗の代に宰相となった司馬光は新法の多くを廃止した。
- エ 唐宋八大家の文人である歐陽脩や蘇軾も反対した。

## 世界史

問10 下線部(8)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 最初の市舶司は唐代に広州に置かれた。
- イ 出航・入港する商船の管理を行った。
- ウ 税の徴収を行った。
- エ 明朝では海禁政策のため市舶司に代わって海関が設置された。

問11 下線部(9)と称せられるようになった背景の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 江南地域で低湿地を堤防で囲んで干拓した囲田が作られた。
- イ 龍骨車の利用や二期作・二毛作といった農法が行われるようになった。
- ウ 『斉民要術』が著され、江南における稲作農業の進歩に大きく寄与した。
- エ 占城稻という日照りに強く早く実る稲種が普及した。

問12 下線部(10)に関連して、中国における紙幣の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 宋代に四川の富商組合が発行した交子という手形を政府が引き継ぎ、紙幣として流通させた。
- イ 南宋では、臨安で発行されていた会子という手形が政府によって紙幣とされた。
- ウ 金では飛銭という紙幣が流通した。
- エ 明では宝鈔という紙幣が発行された。



問13 下線部(1)に関連して、宋代から元代にかけての交易拠点都市の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 福建省の泉州が南海交易の主要港となり、マルコ＝ポーロはザイトンという名で言及し、イブン＝バトゥータも訪問した。
- イ 古くから南海交易の拠点港であった揚州には蕃坊が設けられ、マルコ＝ポーロはカンツーという名で言及した。
- ウ 明州は宋代に市舶司が置かれ、日宋貿易の中心地となった。
- エ 唐代に南海交易の拠点となった広州には、宋代に入っても多くのムスリム商人が居住した。

問14 下線部(2)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 洪武帝時代に魚鱗図冊という課税の基礎資料となる土地台帳の作成が始められた。
- イ 洪武帝時代に課税や徭役の徴発を確実にするため、各戸の家族氏名・年齢・財産等を記した賦役黄冊と呼ばれる台帳が作成された。
- ウ 洪武帝は、里甲制を敷いて新たな郷村の組織化をはかり、住民の一部が交代で里長や甲首として戸籍・租税台帳の作成、税や徭役の徴収、政府への供出負担などを受け持つようにした。
- エ 洪武帝は衛所制と呼ばれる兵制を敷き、戸籍上軍籍に指定された家は必ず一人の兵士を出すことが義務付けられた。

## 世界史

問15 下線部(13)に関連して、明代の朝貢国の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 中山王によって統一された琉球は朝貢貿易で得た物資の中継貿易で繁栄した。
- イ ベトナムでは陳朝が明の永楽帝に降伏し朝貢国となったが、黎利が明軍を撃退し、新王朝を開き、朝貢関係を断った。
- ウ タタール(韃靼)のアルタン=ハンは明に侵入を繰り返したが、和議が成立して以降は朝貢関係に入った。
- エ 15世紀に王がイスラームに改宗したマラッカ王国は、明と朝貢関係を結び、タイのアユタヤ朝への従属から脱したが、1511年にポルトガルに占領された。

問16 下線部(14)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 明の需要に応じて16世紀後半からメキシコ銀が流入した。
- イ 明の需要に応じて日本の石見や但馬から大量の銀が輸入された。
- ウ 明代後期になると一条鞭法によって人頭税が土地税に繰り込まれ、銀で納入することになった。
- エ 銀納の普及を背景に、一条鞭法では租税と徭役負担の税額が銀で表されることになった。

問17 下線部(15)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 長江下流域では水田の一部が綿花や桑などの換金作物の栽培に用いられるようになり、それらの生産量が増加した。
- イ 長江下流域では家内制手工業によって生糸・絹織物業が発達した。
- ウ 長江中流域の広西と河南が新たな穀倉地帯となった。
- エ 長江下流域では農村手工業により綿織物の生産が行なわれるようになった。

問18 下線部(16)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 王直は日本の五島列島などを拠点に海賊行為や密貿易を盛んに行なった。
- イ 東シナ海を中心に活動した倭寇と呼ばれた密貿易・海賊集団は、16世紀の後半からの海禁緩和で日本との民間貿易が認められたため衰えた。
- ウ 鄭芝竜は明代末期に福建を中心に武装商船団を率いた後、明の武官となり、明滅亡後は明の復興運動を援助した。
- エ 広東や福建などの華南から禁令を犯して東南アジアなどの海外へ移住する中国人が増え、東南アジア各地に中国人町ができた。

## 世界史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ヨーロッパにおけるキリスト教徒の間で聖地巡礼が流行し、ローマ、イェルサレム、が三大巡礼地として信仰を集めたのは11世紀から12世紀頃である。キリスト教徒は8世紀からイベリア半島でレコンキスタを展開し、巡礼の道においても、イスラーム勢力との緊張関係を意識していた。11世紀のイスラーム世界で強盛を誇ったセルジューク朝はイェルサレム巡礼を圧迫した。セルジューク朝がにも進出したので、危機に瀕したビザンツ帝国の皇帝アレクシオス1世は教皇ウルバヌス2世へ救援を要請し、年にクレルモン宗教会議が招集された。フランスの諸侯・騎士を中心とする遠征軍が編制され、第1回十字軍が聖地イェルサレムへ向けて出発した。十字軍の兵士たちはひとたびコンスタンティノープルに結集し、からへ進み、イェルサレムを占領した。年にイェルサレム王国が成立し、十字軍運動を通して、伯国、公国、トリポリ伯国も置かれた。しかし、イスラーム勢力の反撃で一部の十字軍国家が領土喪失危機に瀕したので、神聖ローマ皇帝とフランス王は年に第2回十字軍を起こした。

その後、アイユーブ朝の創始者サラディンが反十字軍の勢力を結集し、イェルサレムを奪った。<sup>(2)</sup>それを受けて、神聖ローマ皇帝、フランス王、イギリス王が第3回十字軍を結成し、十字軍の規模は最大となったが、の奪回にとどまった。

13世紀に入ると、教皇インノケンティウス3世が第4回十字軍を提唱した。この遠征軍はコンスタンティノープルへ向かい、略奪と虐殺を繰り返したので、ビザンツ帝国のローマ＝カトリックに対する不信は決定的となった。十字軍によるコンスタンティノープルの占領後、年にラテン帝国が建てられた。インノケンティウス3世はこの帝国を追認し、初代皇帝としてが選出された。第5回十字軍はエジプトへ向かったが失敗に終わった。神聖ローマ皇帝が、アイユーブ朝のスルタンで第5回十字軍を撃退したカーミルと外交交渉し、一時的にイェルサレムを回復した。

フランス王  が1248年から第6回十字軍を指揮し、ナイル川デルタにある  へ進み、エジプトに侵攻するものの、マムルーク朝に大敗を喫した。 は1270年に第7回十字軍も主導し、<sup>(3)</sup>  に上陸したが、 が病死し、十字軍も退却する結果となった。マムルーク朝の攻撃を受けて、当時のキリスト教徒にとってはパレスチナ地域における最後の拠点であった  も陥落した。

200年に及ぶ十字軍の歴史の中で宗教騎士団も組織された。最盛期には100以上<sup>(4)</sup>の騎士団が存在したとも言われ、聖地の警護やキリスト教徒巡礼者の保護、傷病者の治療などを目的に発足した。しかし、騎士団の役割は次第に変化し、所領を保有し富を蓄え、商業や金融も行う組織へと発展していった。

問1 空欄  ～  に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| a アッコン    | b アナトリア          |
| c アルジェ    | d アレクサンドリア       |
| e アンティオキア | f エデッサ           |
| g カルタゴ    | h カルタヘナ          |
| i コルドバ    | j サンチャゴ＝デ＝コンポステラ |
| k ダミエッタ   | l チュニス           |
| m トレド     | n フェズ            |

問2 空欄  ～  に当てはまるもっとも適切な年を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| a 1093 | b 1095 | c 1097 | d 1099 | e 1101 |
| f 1125 | g 1136 | h 1147 | i 1151 | j 1178 |
| k 1190 | l 1204 |        |        |        |

## 世界史

問3 空欄  ～  に当てはまるもっとも適切な人名を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| a アンジュー伯アンリ    | b カール4世           |
| c コンラート3世      | d シャルル7世          |
| e ハインリヒ4世      | f フィリップ2世         |
| g フランソワ1世      | h フランツ1世          |
| i フランドル伯ボードゥワン | j フリードリヒ1世        |
| k フリードリヒ2世     | l フリードリヒ＝ヴィルヘルム1世 |
| m ヘンリ3世        | n ヘンリ7世           |
| o リチャード1世      | p ルイ7世            |
| q ルイ9世         | r ロレーヌ公ゴドフロワ      |

問4 下線部(1)の社会と文化の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ビザンツ様式の代表的建築物として知られるハギア＝ソフィア大聖堂は、5世紀にユスティニアヌス大帝が再建し、正教の中心となった。
- イ 7世紀に公用語をギリシア語とし、9世紀にはスラヴ人の教化を目的としてグラゴル文字が考案された。
- ウ 7世紀にヘラクレイオス1世が実施した軍管区制によって、屯田兵制が行われるようになり、自由農民が増えた。
- エ 11世紀にはじまるプロノイア制は、軍役奉仕と引きかえに皇帝が貴族に国有地の租税徴収権と用益権を一代限りで付与するものであったが、のちに世襲が認められ、帝国の分権化が進んだ。

問5 下線部(2)において12世紀から13世紀に起こった出来事の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア クルド人武将のサラディンは、ファーティマ朝の宰相となったのち、1169年にアイユーブ朝を創建した。

イ アイユーブ朝はスンナ派王朝であり、カイロを都とした。

ウ アイユーブ朝に登用されたウマル＝ハイヤームはジャラリ暦の制定に関わった。

エ サラディンの死後、アイユーブ朝の領土は一族の分権的支配となり、エジプトにあった政権は1250年にマムルーク軍のクーデタによって消滅した。

問6 下線部(3)において13世紀から16世紀に起こった出来事の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア バイバルスらはシリア地方でモンゴル軍を撃退し、マムルーク朝の第5代スルタンに即位した。

イ メッカ・メディナを支配したマムルーク朝は、カイロにアッバース朝のカリフを復活させ、イスラーム国家としての権威を示した。

ウ チュニス生まれの歴史家イブン＝ハルドゥーンはマムルーク朝に仕えた。

エ マムルーク朝は1517年にセリム2世下のオスマン帝国によって滅ぼされた。

## 世界史

問7 下線部(4)に関連して、三大宗教騎士団を成すヨハネ騎士団、テンプル騎士団、ドイツ騎士団の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア これらの騎士団は教皇直属の修道会であった。

イ イェルサレム陥落後、ヨハネ騎士団は拠点をキプロス島・ロードス島へ移した。

ウ テンプル騎士団はヨーロッパに所領を獲得して金融業や交易を行ったが、フランス国王が廃絶に追い込んだ。

エ 12世紀に創設され、東方植民の中心的な存在となったドイツ騎士団は、16世紀に神聖ローマ皇帝カール5世からマルタ島を与えられた。



## 〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ヨーロッパ統合という思想は、その起源を厳密にさかのぼることは難しいが、カントやサン＝シモンなどが源泉の一つとしてあげられることが多い。その後、<sup>(1)</sup>より現実的なヨーロッパ統合論が登場したのは、第一次世界大戦後であった。クレーデンホーヴェ＝カレルギーが『パン・ヨーロッパ』にてヨーロッパ各国の連合を提唱すると、これに共鳴したフランス外相ブリアンは、1929年、関税同盟を基礎とするヨーロッパ統一案を呼びかけた。ドイツ外相シュトレゼマンもこれを支持したが、同年10月の暗黒の木曜日を契機として生じたアメリカの経済破綻は世界恐慌を引き起こし、とりわけアメリカの資本援助で経済復興を進めていたドイツ経済の悪化は深刻なものとなってナチスの台頭を招いた。その後、ナチス＝ドイツのポーランド侵攻に対するイギリス、フランスの対独宣戦布告によってヨーロッパは第二次世界大戦に突入してしまった。

第二次世界大戦後、<sup>(3)</sup>廃墟と化したヨーロッパは、経済や植民地支配の崩壊によって、以前のような世界政治における発言権を失った。<sup>(4)</sup>さらに、ファシズムという共通の敵を失ったアメリカとソ連の対立が激化することで、ヨーロッパは米ソ<sup>(5)</sup>対立の狭間に追い込まれた。しかし、こうしたヨーロッパの凋落は、諸国が一体となることで国際政治における発言権を回復したいという政治的願望を喚起し、ヨーロッパ統合への契機となった。そこにはまた、諸市場を統合して大市場を作り、生産力を発展させたいという経済的願望もあった。ヨーロッパ地域が各国の市場に分割されているのは、市場規模が小さく経済発展も望めなかったからである。こうした、政治的要請と経済的必要性を背景として、ヨーロッパ統合は現実のものとなっていった。

1946年のアトリー内閣誕生によって退陣したイギリスのチャーチルは、ヨーロッパ各国が互いの結合を強め、<sup>(6)</sup>独仏和解の上に「ヨーロッパ合衆国」を結成することを主張した。こうした主張はヨーロッパ統合運動に影響を与えたが、その一方で、イギリスは議会で存する自らの国家主権を変更する気がなかったのも確かであった。フランスは、19世紀後半以降、ドイツに対して自らの安全を確保することをフランス外交政策の焦点としてきたが、冷戦の進行の結果、1949年にドイツ<sup>(8)</sup>

## 世界史

が東西に分割されると、フランスの指導者たちは対独政策をきりかえた。

この頃のアメリカは<sup>(9)</sup>、1947年、ソ連の影響力の拡大を防ぐために、内戦に悩むギリシアと経済崩壊寸前にあるトルコに対して、経済・軍事援助を約束する<sup>(10)</sup> [A] を発表した。また同年6月には、経済困窮によってヨーロッパが共産主義化していくことを防ぐために、ヨーロッパの経済復興を援助するための [B] が発表された。これを受けて、ソ連東欧をのぞく西ヨーロッパ16カ国は、 [B] の受け入れ機関として、1948年に [C] を成立させた。 [C] の成立により、西ヨーロッパ諸国の経済は急速に復興を遂げ、フランス<sup>(11)</sup> やイタリアの共産党の進出を抑えることができた。

こうして、アメリカの要請をうけてヨーロッパの経済協力の素地が作られていった。1948年に成立したベネルクス関税同盟では、初めて各国の社会経済の構造的不均衡を是正する経済統合の試みがおこなわれた。1950年には、フランスの外相が [D] を提案し、1952年にヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)<sup>(12)</sup>が発足した。

ヨーロッパは統合の一步を踏み出したものの、その後の道は平坦とは言えなかった。なぜなら、政治的、軍事的な条件づくりにおいては、まだ足並みが揃っていないためである。とりわけ、西ドイツをめぐって、再軍備をもくろむアメリカと、再軍備を認めようとしない西ヨーロッパ諸国の間で不一致があった。そこで、西ヨーロッパ5カ国は、1948年3月に [E] を、翌年4月にはアメリカ合衆国も含めた西側12カ国が [F] を結成し、武力侵略に対する共同防衛体制の枠組を整えたのであった。

軍事的・政治的問題の成熟と、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の順調な運営を踏まえ、ヨーロッパは政治的にも経済的にも統合を進めていった。1958年には、ヨーロッパの共同市場化と共通経済政策推進のための組織 [G]、および原子力の平和利用を共同で研究するための組織 [H] が設置された。ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体、 [G]、 [H]、これらの3つの機構は、超国家的機構であったため、各国政府の政策決定に対して拘束力を持っていた。1967年には、これらの3つの機構は合併し、ヨーロッパ共同体(EC)となった。ヨーロッパ共

同体は、加盟国相互の関税などを撤廃して域内貿易を自由化するとともに、域外には共通関税を設けた。また、共通の農業政策やエネルギー政策、運輸政策を実施することで、主権国家の枠を超えたヨーロッパ統合の基礎を作った。

このようなヨーロッパ統合の動きに対し、超国家機構による主権の制限を嫌ったイギリスは、統合案に背を向けるばかりでなく、1960年には他の6カ国とともに  を結成して対抗した。しかし、国内の停滞に苦しんだイギリスは、わずか1年半後に正式に  への加盟申請を行った。加盟条件が折り合わず、交渉は難航を極めたが、1973年になって EC への加盟 がようやく認められた。<sup>(13)</sup>

問1 空欄  ～  にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| a 欧州通貨制度(EMS)          | b 北大西洋条約機構(NATO)    |
| c 経済相互援助会議(COMECON)    | d 原水爆禁止世界大会         |
| e シューマン＝プラン            | f 全欧安全保障協力機構        |
| g 単一欧州議定書              | h トルーマン＝ドクトリン       |
| i ニクソン＝ドクトリン           | j 西ヨーロッパ連合(WEU)     |
| k パリ協定                 | l パリ講和条約            |
| m マーシャル＝プラン            | n マーストリヒト条約         |
| o ヨーロッパ経済共同体(EEC)      | p ヨーロッパ経済協力機構(OEEC) |
| q ヨーロッパ原子力共同体(EURATOM) |                     |
| r ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)    |                     |
| s ヨーロッパ連合(EU)          | t ワルシャワ条約機構         |

## 世界史

問2 下線部(1)の説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 人間の認識能力の可能性と限界を問い直す批判哲学の立場をとった。
- イ 自我と自然の合一を説き、美的・客観的観念論を唱えた。
- ウ 自我の意志を強調する主観的観念論を説いた。
- エ 世界を絶対精神の自己展開の過程ととらえる絶対観念論を説いた。

問3 下線部(2)に関して、当時のドイツの状況を述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1930年代の経済恐慌の中、ナチスの指導力に期待し、その中心的支持層であったのは社会上層・中間層であった。
- イ 世界恐慌の不安の中、ヴァイマル体制打破を掲げる国民社会主義ドイツ労働者党は急速に支持を得た。
- ウ 政治的危機が続いた1930年代初頭、ヴァイマル憲法が大統領に与えた「大統領緊急令」が乱用され、議会主義の空洞化を招いた。
- エ 1933年1月ヒトラーは当時の大統領エーベルトによって首相に任命された。

問4 下線部(3)の時期に新たな世界秩序を形成するために多くの体制や専門機関が作られた。次のア～カの中で最も遅くに作られた体制または専門機関を一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 世界保健機関(WHO)
- イ 関税と貿易に関する一般協定(GATT)
- ウ 国際通貨基金(IMF)
- エ 国際復興開発銀行(IBRD)
- オ 国際連合教育科学文化機関(UNESCO)
- カ 国際労働機関(ILO)

問5 下線部(4)に関連して、ヨーロッパ諸国から独立した植民地の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア キプロスは1960年イタリアから独立を果たした。
- イ シリアは1946年共和国としてフランスから独立した。
- ウ セイロンは1948年イギリス連邦の自治領として独立し、のちにスリランカ共和国と改称した。
- エ パキスタンは1947年にイギリス連邦の自治領としてインドと分離して独立した。

## 世界史

問6 下線部(5)に関連して、下記の(い)～(に)はスターリンの死によって米ソ関係が「雪どけ」を迎えるまでに、米ソの対立関係に影響を与えた出来事である。この(い)～(に)を年代の古い順に並べた場合、正しいものを次のア～カから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- (い) 朝鮮戦争への国連軍出動
- (ろ) サンフランシスコ平和条約調印
- (は) ソ連の原子爆弾開発成功
- (に) アメリカの水爆実験の成功

ア (い)→(は)→(に)→(ろ)      イ (い)→(は)→(ろ)→(に)      ウ (は)→(い)→(に)→(ろ)  
エ (は)→(い)→(ろ)→(に)      オ (に)→(は)→(い)→(ろ)      カ (に)→(は)→(ろ)→(い)

問7 下線部(6)が行ったこととして誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 石炭、鉄道、電気、ガスなど主要な産業の国有化政策を行った。
- イ 「ゆりかごから墓場まで」といわれた社会福祉制度の充実を目指した。
- ウ スエズ出兵で批判を受けた。
- エ 植民地であるインドから撤退すると言明し、独立を承認した。

問8 下線部(7)に関する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1940年、チェンバレンにかわって首相に就任し、対ドイツの宥和政策を推進した。
- イ ローゼヴェルト、スターリンとともに、連合国の指導者として活躍した。
- ウ 1946年、アメリカのミズーリ州で行われた演説で、ソ連が勢力圏を作っていることについて「鉄のカーテン」と批判し、反ソ政策をとらえた。
- エ 文筆家としても知られ、1953年にノーベル文学賞を受賞した。

問9 下線部(8)に関する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1948年、ドイツの西側占領地区と西ベルリンに、米・英・仏の3国による、新ドイツマルクの導入が行われた。

イ 1948年、ソ連は西ベルリンへの交通を封鎖した。

ウ 西ドイツの初代首相シュミットは、「経済の奇跡」と呼ばれる高い経済成長を実現した。

エ 東ドイツでは、共産党と社会民主党が合同して、社会主義統一党が作られた。

問10 下線部(9)に関連して、フランスの軍人であり政治家であるド＝ゴールの説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1940年、亡命先のアルジェリアにて自由フランス政府を樹立した。

イ 第二次世界大戦後、臨時政府首席となった。

ウ 「フランスの栄光」を掲げて大統領に就任し、第四共和政を開始した。

エ アルジェリア危機が一因となって、大統領を辞任した。

## 世界史

問11 下線部(10)に関する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1946年、国民投票で王政が廃止された。

イ 1946年に始った内戦は、アメリカの封じ込め政策によって王朝の勝利に至った。

ウ 1967年、総選挙での左派の進出を恐れた軍部がクーデターをおこし、軍事政権を樹立した。

エ 1974年に軍政が崩壊し、翌年、共和政憲法が採択された。

問12 下線部(11)に関する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フランス共産党は、1947年にコミンフォルムに参加した。

イ フランス共産党は、1951年の選挙で人民戦線綱領を発表し、第一党となった。

ウ イタリア共産党は、社会党の分裂によって生まれた政党である。

エ イタリア共産党は、第二次世界大戦中レジスタンスの中核であった。



問13 下線部(12)に関する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア この組織は、フランス、西ドイツ、イタリア、ベネルクス3国の間で結ばれた。

イ この組織の提案が発表された5月9日は、ヨーロッパ統合を象徴する日として、のちに「ヨーロッパ=デイ」と定められた。

ウ この組織の設立にあたって合意したのが、ローマ条約である。

エ この組織は、西ドイツとフランスの協調体制を実現するという政治的な狙いもあった。

問14 下線部(13)に関連して同じ年にヨーロッパ共同体に加わった国の組み合わせとして正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア スペイン、ギリシア

イ ポルトガル、オーストリア

ウ デンマーク、アイルランド

エ スウェーデン、ノルウェー